『音楽教育実践ジャーナル』Vol.13 no.1（通巻第 25 号）特集・原稿募集
特集テーマ「これまでに音楽科が果たしてきた役割，これからの音楽科が担うべき役割」

『音楽教育実践ジャーナル』vol.13 no.1（通巻 25 号，2015 年８月発行）の特集に向け，下記の要領で原稿を募集します。多数のご投稿をお待ちしています。

今回のテーマは「これまでに音楽科が果たしてきた役割，これからの音楽科が担うべき役割」です。ここでいう「音楽科」とは「教科としての音楽」という意味に限定します。今回は「特別活動」としての音楽や，課外活動としての音楽は対象とはしません。

音楽科は，明治時代に「唱歌」「奏楽」として学校教育の中に取り入れられ，国民学校時代は「芸能科音楽」として，戦後は「音楽」として教科の柱の一つを担ってきました。ではこれまで音楽科は，児童生徒の教育にどのような役割を果たしてきたのでしょうか。また，これからの音楽科が担うべき役割とはどのようなものなのでしょうか。

「音楽科は子どもの情操教育にとって大切だ」「音楽科は子どもの感性を育てるのに欠かせない」といった主張は，私たち音楽教育に携る者にとって自明の前提です。しかし，「情操」や「感性」などの言葉はスローガンとして掲げられるだけで，そのような子どもを育ててきたという検証は十分ではありませんでした。今，私たちは，なぜそうなのかということを，理論的背景をもとに論述したり，実践を通して客観的に検証したりしていく必要があります。特に，今後大きなキーワードとなるであろう「21 世紀型スキル」を音楽科としてどのように捉えるのか，肯定的・否定的な両側面から考えていく必要があるでしょう。

そこで今回の特集では，過去から現在に亘って音楽科が果たしてきた役割を検証し，さらに未来に向けて音楽科の担うべき役割を論じたいと考えています。そしてこの特集を通して，音楽科の必要性を広く発信したいと思います。

内容としては次のような項目が考えられますが，これらにとらわれることなく，特集テーマの趣旨に沿った幅広い投稿をお待ちしています。特に，授業実践をもとにした原稿を期待しています。まもなく２学期が始まります。実践していただき，その成果をご投稿ください。

1　音楽科における学力論・21 世紀型スキル
2　音楽科と科学との相互関連
3　音楽科の必要性を示す実践事例

原稿の分量は，情報量に応じて，２頁，４頁，８頁，12 頁のいずれかを選んでください。 文字だけでなく図表・写真等，創意工夫を凝らした投稿をお待ちしています。

【投稿時のお願い】

・投稿の際には封筒に「ジャーナル特集投稿」と朱書し，下記送付先にご郵送ください。

Vol.13 no.1（通巻第 25 号）特集投稿送付先
〒184-8799　東京都小金井郵便局私書箱 26
日本音楽教育学会事務局［編集担当］宛

・【別紙１】投稿申込書と【別紙２】投稿者用チェックリスト各１部（学会ホームページよりダウンロードできます）を同封し，原稿４部をお送りください。

・お問い合わせ　onkyoiku@remus.dti.ne.jp

・論文，報告，提言など，種別の希望をお知らせください。ただし，審議の結果，希望どおりにならない場合もあります。

・書式，字数等は学会ホームページの『音楽教育実践ジャーナル』投稿規定および「投稿の手引き」，テンプレートをご参照ください。図表，写真等も挿入スペースを文字数に換算して字数に含めます。

・原稿が届いたら事務局より受領通知をお送りしています。万一 10 日以上経っても通知がない場合は，お手数ですが事務局までご連絡ください。

・採否については，編集委員会の開催日の関係で，2015 年５月末日までに投稿者に連絡します。審議の結果によっては，修正をお願いする場合もあります。

通巻第 25 号へのご投稿は，
特集投稿・自由投稿とも，2015 年２月 15 日（日）（必着）までにお願いします。